

令和3年度（2021年度）新規研究課題

課題番号：R3-09

課題名：生産性の高いやまぐちオリジナルリンドウ新品種の育成
および品種特性に応じた省力栽培管理技術の確立

研究期間：令和3年度～令和7年度（2021年度～2025年度）

研究担当：農業技術部花き振興センター

1 研究の背景

県では、リンドウを県内の中山間地における収益性の高い品目と位置付け、生産振興を図っている。

当センターでは、これまでに全国で最早期出荷が可能な極早生品種「西京の初夏」をはじめ、耐暑性を有するオリジナルリンドウ「西京シリーズ」を5品種育成し、大都市圏の花き市場などの流通関係者から高い評価を得ている。

一方、5月から10月までの期間において品種バリエーションの充実や生産性および出荷量の増加に向けた対策が求められている。

2 目的

オリジナルリンドウ「西京シリーズ」について、品種バリエーションの充実や収穫期間の拡大を実現するため、既存品種とは収穫期や花色特性の異なる生産性の高い品種を育成する。

また、生産性の向上や出荷量の増加に向け、育成品種の特性に適応した省力栽培体系を確立する。

3 研究内容

- (1) 既存品種とは収穫期や花色などの特性の異なる生産性の高い品種を育成する。
- (2) 育成品種の特性に適した整枝方法や施肥体系を確立し、出荷量の増加が可能となる省力栽培管理技術を確立する。

4 研究のポイント

- (1) 収穫時期の異なる新たな品種の育成により、生産者の収穫や出荷調整に係る労力の分散化が可能となる。また、既存品種にはない花色等の特性の異なる品種の育成により需要の拡大に寄与できる。
- (2) 品種特性に適した省力栽培管理技術の確立により、生産者の生産規模拡大や労働コストの削減に寄与できる。

生産性の高いやまぐちオリジナルリンドウ新品種の育成および品種特性に応じた栽培管理技術の確立

研究機関: R3-R7(2021-2025)

研究担当: 農業技術部花き振興センター

背景

全国需要にこたえられる品種

全国で最早期出荷が可能な極早生品種「西京の初夏」他、オリジナル5品種を育成

産地における有望な品目

高収益性の水田転作花き作目
低コスト導入可



問題点

- 5月から10月までの期間において品種バリエーションの充実が求められている
- 安定的な継続出荷のために収量性の増加に向けた栽培体系の確立が必要



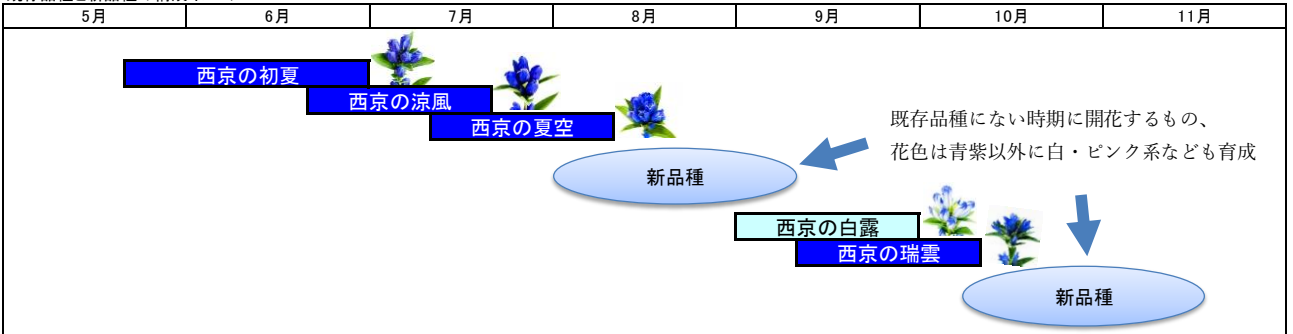
研究内容と波及効果

新品種の育成

- 既存品種とは収穫期や花色の特性の異なる生産性の高い品種の育成

- 出荷調製に係る労働力の分散
- 作付面積の拡大
- 品種バリエーションの充実

既存品種と新品種の構成イメージ



栽培管理技術の確立

- 品種別整枝方法や施肥条件の影響を確認
- 出荷規格別収量、切り花品質、経営の各評価



- 栽培体系の確立
- 栽培マニュアルの作成・普及
- 単位面積当たり収量の増大

期待される成果

- 大幅な収量増加につながる栽培体系が確立され、産地拡大に寄与
- 市場ニーズに応える高品質な切り花リンドウの安定的な継続出荷が実現、新たな需要の拡大